

News Release

オミクロン株の感染拡大で問題再燃。アクリル板越しの会話で 8 割のビジネスマンが困っている問題を一発クリア。ワンタッチでどこでも設置できるスピーカーフォンを新開発。

株式会社リョウケ(本社:埼玉県川口市、代表取締役:早川 國好)は、コロナ禍の長期化により、あらゆる所で常態化したアクリル板の設置に伴い、アクリル板越しの会話を聞き取りやすくするスマホサイズのスピーカーフォン「Catch Voice」(キャッチボイス)を開発し、2022年2月14日から一般発売を開始します。

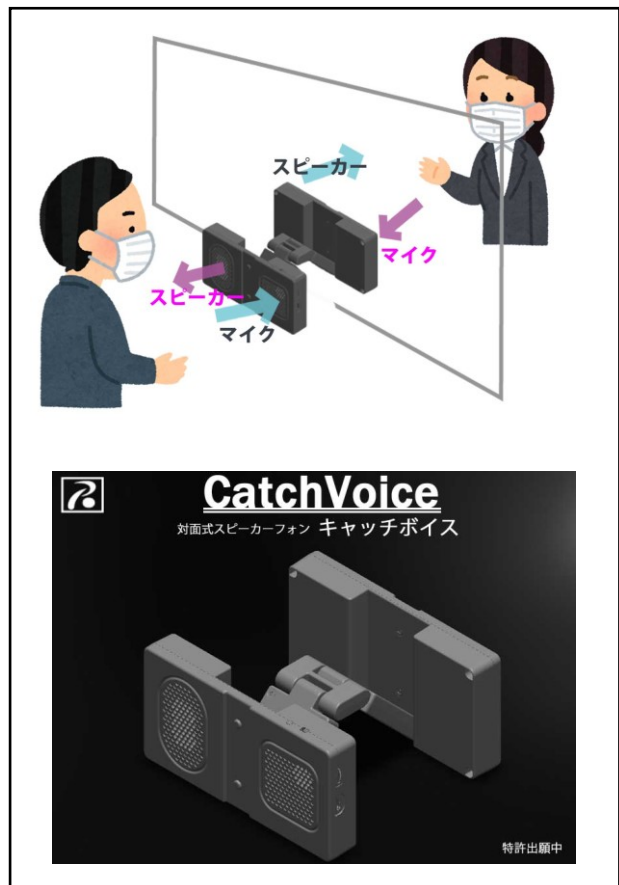
アンケート結果^(*)からアクリル板が設置されていることで、「聞こえたふり」をした経験がある人が86%、さらに「相手の声が聞き取りづらい」と感じる方が全体で83.6%になっていることから大きな社会問題となっています。その不安や不満を解決する製品がキャッチボイスです。

(*) ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 聴脳科学総合研究所調べ 20~70代男女計1000名を対象

■「Catch Voice」(キャッチボイス)の特徴

1. 親機不要の独立型スピーカーフォン
2. 誰でも使える電源スイッチとボリューム調整だけのシンプル設計
3. 邪魔なケーブルを無くし、USB充電式で1回の充電で約5時間使用可能
4. スマホサイズで厚さは約4cm、重さ200gと軽量なので持ち運びに便利。ヒンジ部分は360度回転可能。
5. DSP制御でハウリング対策やエコー対策も

名称	: キャッチボイス
一般発売開始日	: 2022年2月14日
販売料金	: 22,000円(税込)
重さ	: 200g
サイズ	: W134×D40×H70mm



【本プレスリリースに関するお問合せ先】

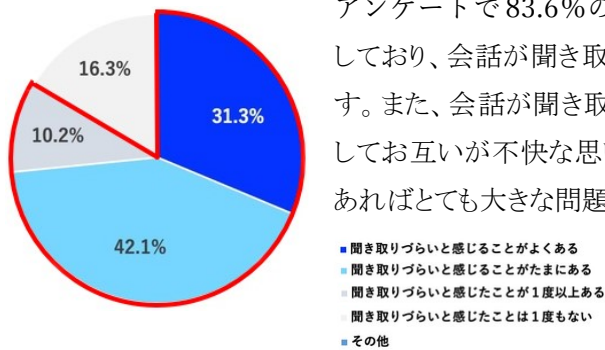
株式会社リョウケ 常務取締役 早川 悦生
 住所: 〒334-0062 埼玉県川口市榛松 691-3
 Tel: 048-281-9790
 E-Mail: yoshio-hayakawa@ryoke.co.jp

1. 現状

■相手の声が聞こえない不満と不安を感じている人が、全体の8割に

聞き取りづらいつ感じるとの回答が全体で83.6%(*)

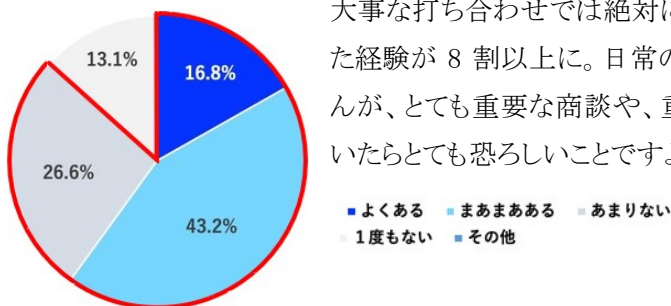
Q.店頭や窓口で、マスク着用やアクリル板越しで会話することについて、聞き取りづらいつ感じた経験はありますか。



アンケートで83.6%の方がアクリル板によって「聞き取りづらいつ感じる」と回答しており、会話が聞き取れないというストレスは大きな社会問題にもなっております。また、会話が聞き取れなかったために伝達ミスをしたり、何度も聞き返したりしてお互いが不快な思いをしている現状があります。その会話が重要な内容であればとても大きな問題になりかねません。

「聞こえたふり」をした経験が86.6%(*)

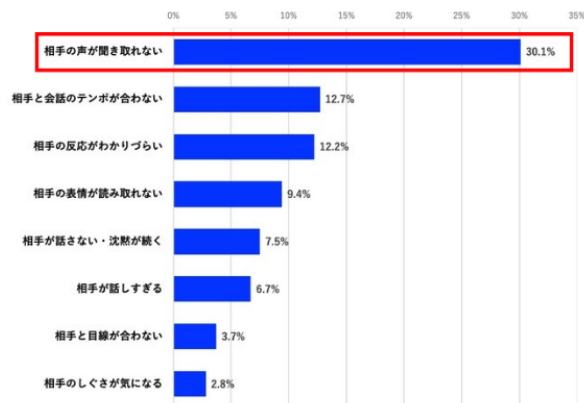
Q.あなたは、相手の声が聞き取りづらいつことで「聞こえたふり」をした経験はありますか。



大事な打ち合わせでは絶対にあってはならないことですが、「聞こえたふり」をした経験が8割以上に。日常の何気ない会話であれば、大きな問題にはなりません。が、とても重要な商談や、重要な会議、打ち合わせなどで日常的に起こっていたらとても恐ろしいことですよね。

「相手の声が聞き取れない」がストレスに

Q.コミュニケーションをする上でストレスを感じることは何ですか。(N=1000、MA)※上位3位回答のうち1位のランキングを表示。(*)



コミュニケーションをする上で、一番のストレスになる原因が、「相手の声が聞き取れない」という結果に。人と人が話をする時の意思疎通の方法は言葉です。その言葉が分からないと、コミュニケーションがとれません。新型コロナウイルス感染対策で、アクリル板とマスクを着けていると、声も聞こえづらく、口元も見えないため、大きなストレスとなります。

(*) ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 聴脳科学総合研究所調べ 20~70代男女計1000名を対象

2. 課題

新型コロナウイルス感染防止で相手と会話をしたいのに、アクリル板という壁が登場し、ビジネスマンの商談、面談、打ち合わせでの相手の話が聞き取りづらい、聞こえない、聞こえたふりをしてしまうなどの不便さや不安が大きな課題となっています。

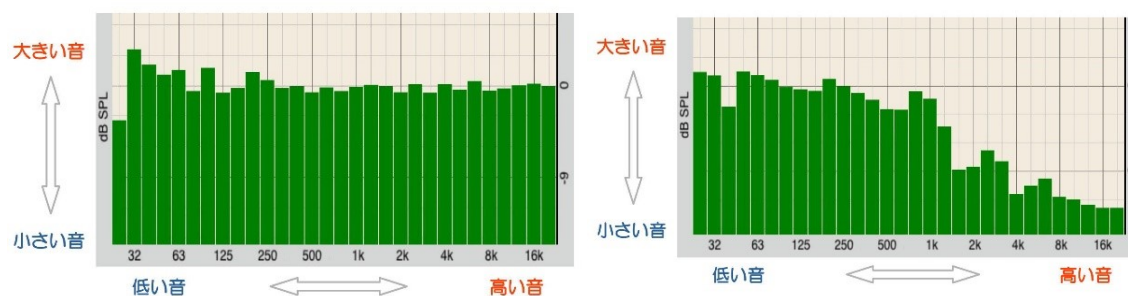


■アクリル板があると言葉が聞き取れない原因

音声は低い音を多く含む母音(ア・イ・ウ・エ・オ)と、高い音を多く含む子音(母音以外の音)から成り立っています。

アクリル板がない場合は、低い音から高い音まで相手の耳に音が伝わります。

アクリル板がある場合、高い音(子音の音)は遮られ、音が聞こえにくくなります。



(自社調べ)

アクリル板があると高い音(子音)が小さくなり、言葉が聞き取れなくなります。マスク着用時も同様に高い音(子音)を遮ります。アクリル板があり、さらにマスク着用の場合、さらに相手の言葉が聞き取りにくくなります。

3. 解決策

当社はこの課題を解決するため、持ち運べるサイズの携帯型の対面式スピーカーフォン「キャッチボイス」を開発、販売を行うこととなりました。

キャッチボイスは話し手の声をマイクで拾い、聞き手側のスピーカーから声の高い音の成分を主に出力します。キャッチボイスでアクリル板によって遮られる高い音を話し相手に伝えることで、子音が聞こえやすくなり、言葉が聞き取りやすくなります。

またキャッチボイスは、約 200gと軽く、スマホサイズで持ち運びに便利です。さらに 1 回の充電で約 5 時間使用可能な USB 充電式、乾電池や電源も必要ありません。

■キャッチボイスの活用イメージ

- ・お客様訪問の時、相手の声がアクリル板で良く聞こえない時に！
- ・アクリル板の設置してある薬局や、病院、役所、銀行の窓口で大事な話をするとき！
- ・介護施設などでの面会時に おじいちゃん、おばあちゃんとの会話も弾みそう！
- ・アクリル板越しの会話で“聞こえたふり”をしている方



キャッチボイス設置例(自由自在に様々な角度で設置可能。コードが無いのでコンパクト。)

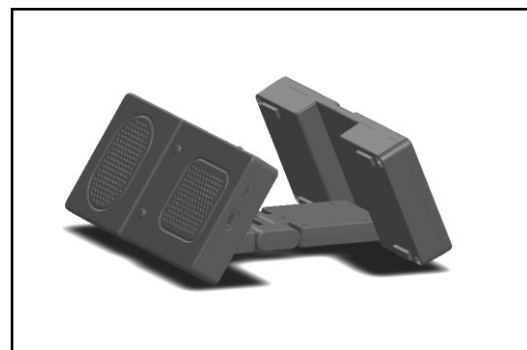
■キャッチボイスの仕組み・工夫点



キャッチボイスは、高い音ほど拡がらず真っ直ぐ伝わる性質を利用し、その音のみ抽出しスピーカーから出すことでハウリングを抑えています。それと同時に、様々なデジタル信号処理技術によってハウリングを抑え、音の高さによって大きさが変わらないよう補正処理を行い、相手に言葉が聞き取りやすい音を生み出しています。 特許出願中。

■商品の概要

名称	: キャッチボイス
重さ	: 200g
サイズ	: W134×D40×H70mm
発売開始日	: 2022年2月14日
販売料金	: 22,000円(税込)
販売店	: アマゾン、Yahoo!ショッピング、弊社サイト
URL	: http://www.ryoke.co.jp/catchvoice/



■今後の展開

500台の先行販売後、使用者からの意見をもとにさらに改良を行い、若い世代からお年寄りまで、コロナ禍で常態化したアクリル板越しの会話で困っている方をサポートできる製品を提供したいと考えております。

■事業者概要

プラスチック製品一筋に50余年。1970年に埼玉県川口市領家で小さな町工場として誕生し、コースロープを主に製造していたが徐々に規模を拡大し、社長の生まれ故郷、山形県村山市に工場を設立。ブロー成形と射出成形(インジェクション成形)の技術を駆使し、工業用部品、家庭用雑貨、販促品などを製造。

商号	: 株式会社リョウケ
代表者	: 代表 早川 國好
所在地	: 〒334-0062 埼玉県川口市榛松 691-3
設立	: 1970年1月
事業内容	: 各種プラスチック製品の製造販売
資本金	: 3,000万円
URL	: http://www.ryoke.co.jp/

